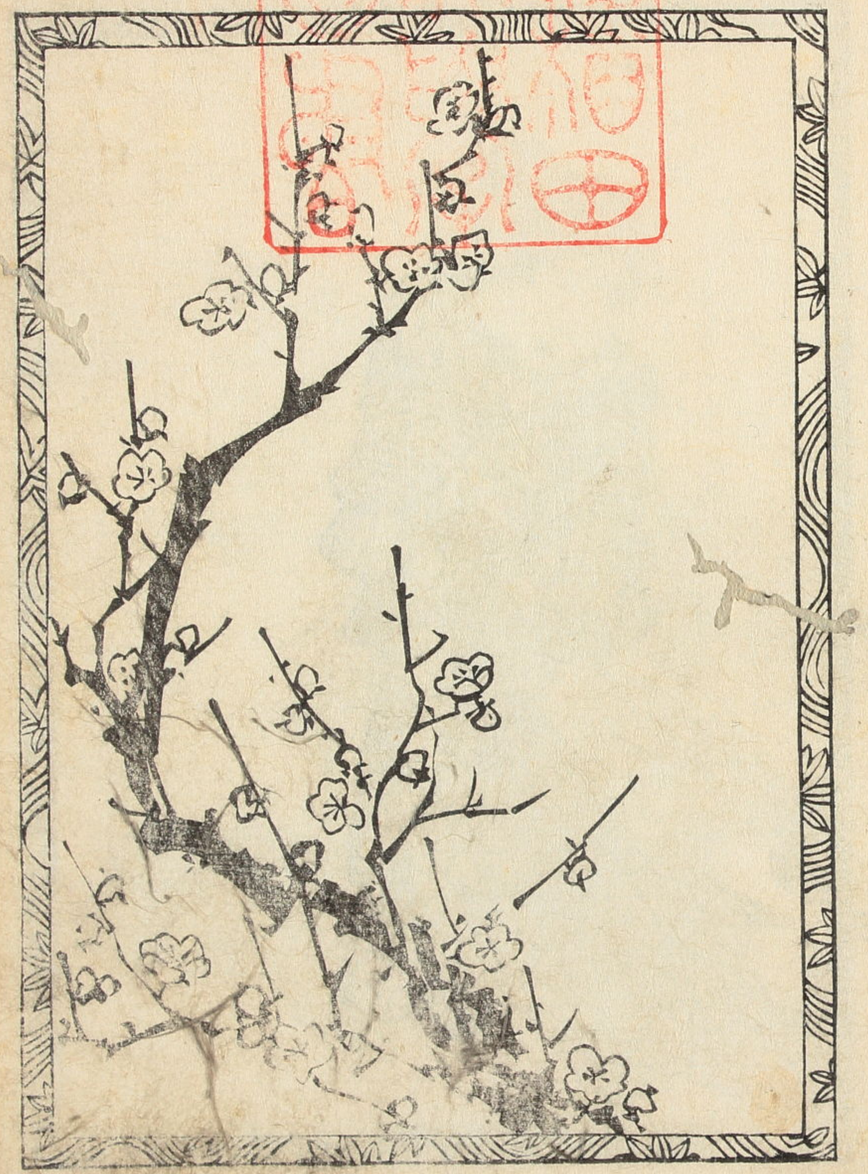


門へ遠13
463
巻 8

谷中の月巻之三

江戸　十字亭戯作

○第四回

斯て四人ハおの〳〵床もとをぶまる社。畠頭長六ハの赤鬼ハ。ゲイ〳〵といひるぶら小便所へ行〳〵ゲゑ〳〵と清十郎の本名大工の五八ハ出あひて囲ヤあ〳〵さんハ囚ヤアリ何ウ赤鬼ぞやァねく〳〵囲赤こまく〳〵五八さんとハ見ハふ〳〵だい囚たいめんじやるア囚コウとた

ふどうのいえもとぶくません
ゞ。何分赤鬼じゃア。ゆ〳〵ぶくせんうら
おおぶちりとるりてゐんとうとおりて。かん
げへ〳〵ゐんゐぶ。どこでもはいりゐ我ゐ〳〵ゐ処
る〳〵てとまりてゐまゝ〳〵ぶ。音中（やなか）へはつりぞゐ彼（とも）
をゐさるゆゞねへうらこらふ一だんきゆうと。
先（せん）だりてうら爰の内へめりゆを五〻そ〳〵て
ちゝでの名八赤ちゝでゐふ長（えんとう）の長六さん さ
五 とりはきゆうゞゝとゆ〳〵ゐ紙（ぶくろ）赤ゃある

たゞり〳〵浅草の長兵ゑゃアとぶくませんゝ
徳 ゝ〳〵赤鬼ゝとりはゐ三ゐゝゞ。ゞゞ一ゝ
ぺりのゝ赤ゝゐふゝとゆ〳〵ゐ清（かなへ）ゐ〳〵きて 豆 ヨヤ清さんゐん
ゞゝ 五 りゆゐ清さんじゃゞわゝ。さゝふゐゞ戸ゞゆ
ゆまりゝゞ。今ゝりゝはゐ五八さんゞさゞゞ〳〵 豆
形のゐゞ〳〵ゝゝゝゝゝとゐゝゐゆゐゝとゐゝゐて形
長清千郎とゐゝゐゝゝゝゝゝ

てあるつりでありさぶ。きよ。ゑめ山ゑ見ゑ人めわんこ
うこ清美のづさんを見てきうそく。トいふゑめ
あたわ
ぐりて 三 ヨヤあめ人さんいあるつさんの清さん
ゑやァわんこう 五 清さんとハかりの名さそんな
やぢハもう西の海さァあゑゑさんのゑゑ人
ハあり〜あんで 徳 今いりてゑゑ 三 ヨヤさ
つ山まで上ぐさのとそで あるさぶ。のヨヤく
どゑ〜さのぐだらう わんこ。トこ注もきをつてある山内
赤鬼ぶあれくさのあるさもきさりて 三

三ノ二

ヨヤあめ人さんぐさァさんを去りて居るァる
のこ人。ヨヤ〜けーこうわんこ。ようり引 四 おま
さんをとゑちりつぢん。おとり 三 ヨヤ清さん
ゑやァあ〜こう人 五 清さんハゑぐ〜ゑ人こう急
ゑハ清ゑゑゑ。ゑり毋〜さ。ゑ舟ハ古工の五八
さ。今こうどゑぞあんハ安く。目をとけてあく
ん毋人 三 どゑ〜さのさらうわん。ぶのさ
あさもうひさんだとおりて居さう。り
利金さん 徳 もよ利金さぐやァ わんと

いよのかゐ国より〜おくらんへ。ばんしゅうはいま浅草
の義おかうくまのあれ徳吉さんといふお方
でゴザイます。ヲヤ〜五コウのうそのヲヤくいろ〜てくれねへおい〜くれねへせ
三三そまでもあんまりよく〜だまり〜るあん
たさのそトいふ徳吉が手とろろうてやり徳コウ
酒のいくもう飯いろてやてくれへ。そのつひ
でかあんぞ貧くるのの代市いさ夏一行く〜
もうるせへのんでり〜ばかくまへかゑ女ろたも

だまるせうやアうあのかりんでこゑズまるすれへ弦ち
とろりのざ〜ばうびとて三ヲヤくどろこさのと
ア引とあくびとて三ヲヤくどろこさのと
せうるみおとるろこが。あくのうやアたり〜かゑ義なの
のるゑばぐトいひるぐろ市モシどこへいなる
ナるへ三ちろうと市んとそこまりめん
だョころこそのぐ。コウよそのざ〜ばへアハ
ヨりいとかくのかゐ三るかうまりのうトそれ徳
ヘイるゑばぐんよろう徳ヲ〜三吉ろどへ
〜こ今ばやの出来あハ三いやのう大のそ

どごろ井のさコウかたんぐうおんもとろちく
末ゑ 三 めゝも久 三 さあうさ年季(ねんきり)者の
久助とハかりの名まことハ下ぢりの二吉さま
とハ。かまぐるぐぞかたんぐうさアく〜ささら
〜〜。とんかいぜぎきハりうどゝんぐ。コウ
赤鬼(あかおに)ふさあ〜いつてゑのと 赤 承知(うけ)く
トいひるぐうちゝゆたさるぐあぞちややふあぐけてゐた
たゝめゝくのさゝの四人ぶんとゑゝねあたくさゝゝ
てきてぎぐんもひとゝくたくくく

ろさえんひきてゐる女郎ちのゆとうんなあげよう
図そこへてあくまこえ三人ぐさ酒たくさん三人ぐうくく
ようぐうく。さうのうさきうくとはうう大のうゆうり
て赤鬼ぐうゆくくゆうゆうゆうぐうちうりとの番ぐうえハ
大きうちぐひのうゆうえ人ゆのうきあううる報をぐして
えまくゆうゆうれもまうう酒うけるゆゆ及びゆうゆゆ
いうくうゆくうゆうゆ行くく座のぐんどうる見極言と拾ぐ
ゆ拾て赤鬼ぐ軍師ぐうる人ゆうくうるうりかて
ぐうりまくのまぐ義ひりとうゆうゆ行座へ入りりり

第五回

拾うゆくく大のてゆて国中のうゆゆと名ゆ紙ゆ尽くく
がうく。いぐゆも今度のうゆゆゆの酒りくるゆて
女郎ととくくうゆゆ消く。中くゆうて一ト
方ゆうゆうりと一ひうえ毒気をゆうゆてより
急ゆゆゆやゆうくうるゆゆ。ゆ人ハいくく弟ゆ
のりて。大平楽の巻ゆをあくく。孫ゆ歩ゆ
ゆけくゆゆ。うくくうくうくうくうくうくうり。
ゆのち両三金ゆも一発ゆて行くくーグ。さて又

別の妙法そうんとさるぐ
ゝ。あるも三吉だんく
ぐるをよゝのをて今ふうを
よびゝ。とまるめをぐ
うちらも この地へいりこ
めたのをろう うこ。長吉とく吉とあう
さゝ ゆたて谷中のさとくなりむ 風そゝハ。
五ゝ月代おひさいりた。元借こんを。本内
ひげを横へひんやげ青梅じゐの彩うふ。巾廣の

まゞい八丈の帯とまし横のわゝでかいの口結び
黒ゝての自地かりん一り海さゝ撫うゝ入け赤
編編様よさげなを入の中分の三番ろう
中抜でそとる 女 男の りしゝ チドおうふ
愛信出 伺のまゝ文助 男 コレハ ゝんぐおうを
を。おいかさゝ 出 来てゐる 男 アイ ゝ
伺てさ 出 フウ伺けり 助 ゝ
かし 出 おゝくぐし と 女 おいをんし
二ゝへ ゝ ゝ 出 ゝ ゝ イタゴブレ

山〳〵のまどじゃ。ズイラデバキナサロ〳〵、女六へ
おせんかんし〳〵 兵又せうじのやどまでさあ安う 女
ヱヒヤ中ハよく〳〵 兵ヒヤ中ハよくのまんし〳〵 兵フウあの附そ
明今ごと 女うて来ずまつちやア。おまん母へいつかさよ
兵ヒヤ母〳〵ハ。おまん猫〳〵陰ごと 女おまんのくひ殺
ゑやア。油断ごと猫〳〵 兵何ごあのふんだやア
おまてごもゐる。猫つう〳〵。それ猫〳〵ハ。鼠小ゆ
〳〵〳〵〳〵。来て。ゐるといつごと。又だんくる
〳〵〳〵〳〵。〳〵〳〵〳〵

出 ちやうんでうとのゝ いまゝまうしい草履と 家 だれか
かまわとどうひるぐ〜 出 こうぬぎよ 家 なぜ 出 足をこうぬぐと 何のぞうぬぐで 給
るでとゝてもな 家 多つて、こうちやうひけるゝゝ 出 来ぬ
こひよまひこまりと 分てとゝ、あぐるこう 家 せまゝ事と
いふのゝ 出 せまゝの 屋いのと、花嫁の 居
れこしじゃ、おるまゝ モウ 何の 時こと 思やアるゝこと
こゝ八大方 御のこと 見て 来やつ かつて 稽ぐ
の 面で まて 出 ぬ 自 分 とつとる 出 しいの 拍子
けこるのゝ ぞゝわどか せざこゝ、ざこゝやくの 馬と

アるゝこゝ 家 ゆうてあきれ〜アおまゝ 出ていこ〜内て
今までゆこうとゝてあるこのゝ 何のゝ こんゝよ 古いせこう
ぬとゝゝ 出 で一たくとゝ ゆこうゝ 家 ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
こうこやつてゝゝてゝ 出 中し 服 いつてゝ どのゝとこうよんて
此 面 ゆ しして 来 てゝ こんゝ 分 よ 大 平 といふ 事 ハこゝ 服
ここうゝ ぞこゝ ぞこゝ 出 た ぞこゝ 出 志 和 ゝ こゝ 出 こうぬと
こゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
行こと 和 出 そんゝ ゝ ゝ 家 きついまけ
いこゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

強でゆるしてやるまへ
でもおんなまり出がいい 家 ウヲ外へぴんとすりてハ
入すれども ついあやまつて強おさえるゆせ女なり
それでヨイワサリ〳〵 コツ中ゆりかまへ
きうといふ舌とぢのでんる 図 又香でこぶさる
のうとはいひふり〳〵 家 何のゑい〳〵男の側で移移
泡ぶ 図 おきやがれ 怪いが出てあきれるハおろ
でもおろ 家 おろかり〳〵 とかりてこうつ
ぢく 図 ちよりあて何ぶ人 家 おろくどんでこ和どんな

そういつてはあと信でまてらん強 女 そろとする
のうと行 家 サア痛ない 図 はかんまあ枕ぶ
とかり〳〵 何ぶ出姫市と押さぎまとうろ横たと
しく。女やくらと りて来る 家 おるどけ 女 おきんおれるん
と行 家 ただとのまま強 とらうんうろとて。 図 ちつと
めらかう 家 こうなる 図 メリヤマ いやな宮ものまつ
ぬ家ぶるかく 形ぶこうなハせまへコワイロへ三百ぬの
今ぶかしぬ 家 おいらもゆい 図 やろかう 家 あと
そうそうなる家 図 安くするをコヒ早 あくらるこんな

やうでもなく分代ハおもよりハ長さんといつちやア。
おてしく。庫の掛ヨ。庫の二ツ所もおてあるな。場所の様。
そハ家フウてアやアんのと孔ろてあるのう図おさやア
ぐれえんなかれう掛ぐハ家伊のこうぐさけの名にぎてのう
図こいつア新しい事といつさ家コウ伊のこでおごん絵図
タアまけておくりまきれは今秋米さのぐうう絵
正ハいう絵ハ家そんなるいつう着麦と男うさ附そ
ぐくちに絵さ附うそ附の着麦ア絵つそうまく
おうつさ図あぐおくうても馬ひぐうやぐて

家うそをいひ絵図うまく絵のうまのといや
ぐても肉しやアうぬらうアきくずめしれ合て
ねるぐうう家コアこ家ぐうるまあとといひるんるせる
ぐうと図そんるよくうるとそ服う着るハ家ひり
いうびりぐうア巣ぐんる図ナニひるうア絵そうちの服
うよ家わるまとアてもぐ弁アぐとうぐるとあんぐ
コウえるようなと図るのる図ドレアんせえしくうくて。
ムようるぐ付てあるそれよくわうきてるのうしたるハ
家伊おも高せうしユリヤ大事のあうくう黄ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らうヨ 長 ゑ〻ヨろうさその者ふ人の目と
となりの者のうろうり本がある。こまふ
あんめりーとうふのの。あんごうつまらわ人
ふまごの 元 こまでもあり〻ろうのこあが
ぎーう 長 ろうわと画でろがあるんちゃア
ちうふ うけみ（ぜ 元 画でろぐらいう。
ちうとふ画もかく人さ 長 ゑくどこでさ
元 どこでもいのさ目ろちが者ういハ
色男でも者ろうとあり人ぐふ 元

ゑめ人ぐいろかあるる男あろうどんなるさ
らう あり比ゑろれるぜ。ろうるどふあるのハ
ゑんごこうろと又参ぎんとををがく
ろうぐっ一本あるぜ 元 ゑんぐんいろうぐが
あるでいうきねといのさろう 長 こち
つけるぎんぐりのぎろりだのこるゃアゑ
めんとむひうと元んでるそうれてことと
〻このご 元 うろヨのそゑ 長 そまでご
うろうゃ比とそうぐ。ぎのいふまごの。是

とんるきんでてゐるのハまゐ
ゐるるのるせん
一朔一夕のことめやアのうねへ。ゑ。きめへ
ゆ牛がたるうををはけてゐるのハどゆ
いよつりりぐ。ぐ。とりてもこうアるう
らわへ豆へ名のところめへ図そう
よ[illegible]そうやアうしごめようと
いへことさ[illegible]そうおうしく
りわへの。そうてこうやゞかゆるく
あるうう あるうてきるといゆるゞらう

図よみおうう。ゆのう
ゆうう長歳とうふゞ
かんさうや絶子でも
まゆ絶やうれ[illegible]ゆのゞそんゆ事とい
ても年へハ初ハかけへま図ゆのしでも書ハゑ
みで目うくてひまて稲しく始るゞいく
ゆ。猪。史きえさ。浪人でうもおうるゞと
稲へう[illegible]アゆ猪てゆる小周よりて来る
ゆ。ゆさへ長れのうゐさでゴウ。おゆ。小
ゆへ長へつく。長れうゆてくるの先へ入る長け

[illegible]るのぜ【そん】ゴろいくを
ぜーとろーくるねるりがまたぜ【ちょう】
たねさじゃァ ねくあるきのいきろひれ入ぜ
【浮】るぜス【ち】おれーとうまくそろーぜ
うろよぷくやーくふぞさまるくつのりゆるう
てぷまんげぬつそたでもはけてるさんー
【そん】ゴくきのさふうる。るんのそんるもぜるふ
だまさまるものろ。うまくそうおうふ
あーらってやれば。わきられさきふるって

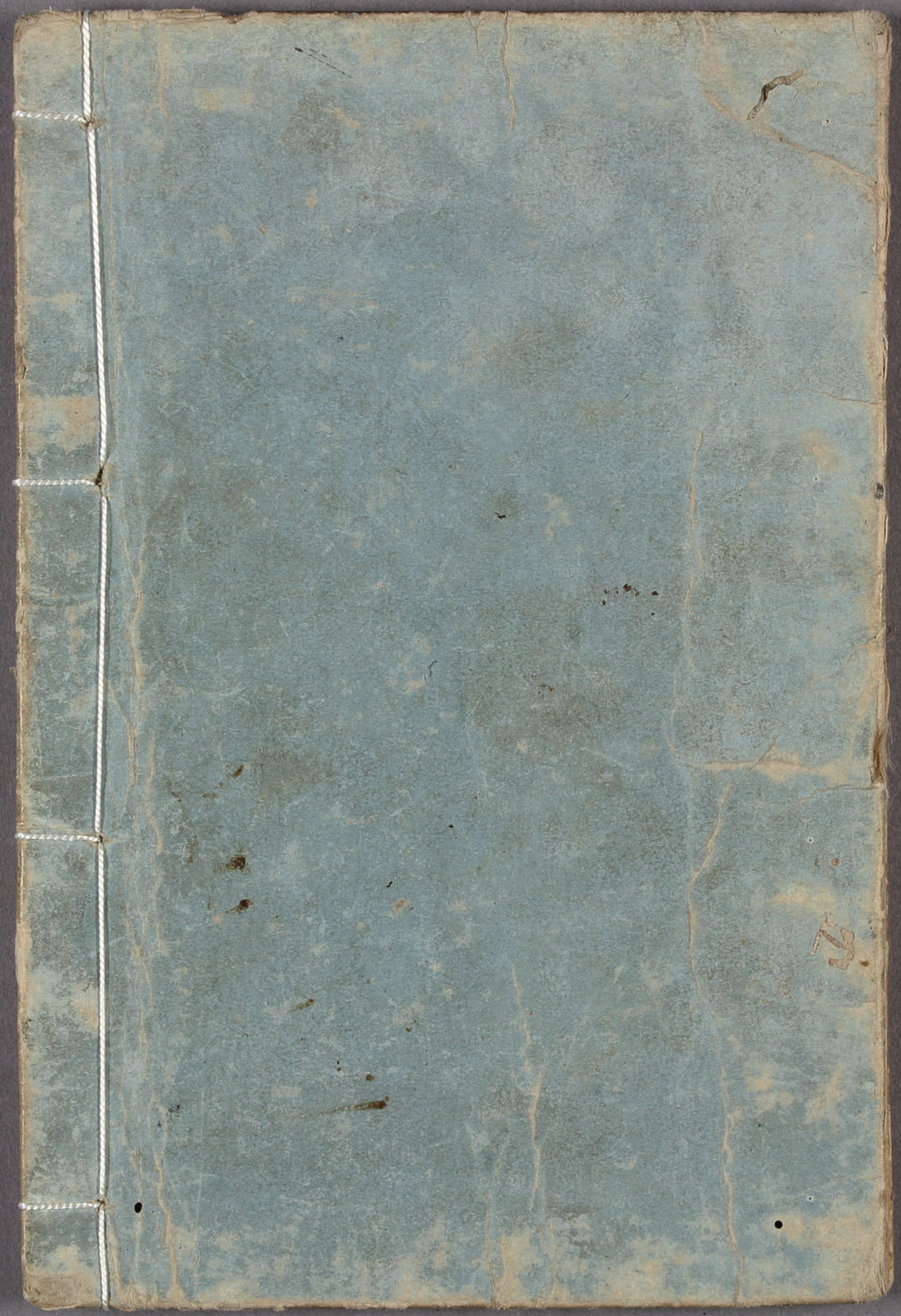
三ノ 十九

あるろう大ろうひぜそんるんくるふるれる
せうるかさんだとなりひるそるろ。ヘン人
ぞはけれーさ【ち】るんぜとろうがどよゆろ
とうゆうおいろふとたぐーうふまるので
まァちんとちゆまきのまちもちまるといるのぜ
うろぷくるきの女ぜともいうまるのふぷんゆそる
ゆ せうさるのおいろうのめくでぷぷちんとちゆろむ
ちんぜふぷ。大ろうそのうてるそたまろんろうでゆる
うろふびんぜ【そん】ヘンそきまでゆも だきぜ

仕こんでゆくことゝおもひるそうく
そをとちりとゆてくるゆゞある 丑 あやまるこ
く 長 とまこさのゆけんこうてだくゆわさく
るゆゞあるこのくのふ 丑 あやまるるうこさんて
あげるこく 長 とまりこさのんざあやまるく
長 そんるうるんでも るこさくるせく。くゞい
のりやるこゆ一トとそりるういたこせりこう
の字びたゞゆく 長 ゆくだひたゆもどこぞ
おどりとるうふせるゆどのあるうちくなる 公

さんく。たりで女郎やゞの形るんどふう
きる女ぞやァわく 丑 まこたうこそふふ
く 長 おりといるゆくぞちりとさく てくゆ
ゞある 丑 るんゞくわきゞるうる 長 佐渡
うう出るのゞいりちこくのゞらう 丑 うるゞだ
ゞまりるうう〜込のかゆ〜こうる出るる
長 あいやァおりァ一だとのゆせ京ゞ〜ふも
侍馬町ゆも取つゞゞあるふ。とんるここァ
うきうとわく 丑 うるゞ屋く 長 うんゆや

[illegible]あるごやく人[illegible]るゆきあるごるんざア
四どころ所の二見へめのふちのゆうふいくうう
どこのでもくろねく人[illegible]そーてるんぐく人[illegible]ま
めくの年ハどれをとある[illegible]ヨャ何をきく
うと思くば。アイ二年三月さ[illegible]大くんぐの
[illegible]たのくんぐの。そまゆやアいろく[illegible]お
ぐんがあるよ[illegible]どのふのの[illegible]そまハいよ
ところへせ[illegible]て[illegible]ちくくまさのトをまたた
とあけて[illegible]
ゆや[illegible]おくるさんるぶちろもうわ成こせ

わくのご[illegible]いひるけのゆうぐぶろふくん
どころねくまゆくゆあて大きふぞんぐ多
らぐぶきき[illegible]とたふいぶまいろ男だろふ
[illegible]ろんゆちんるくんるうろいくられど。そろやア
いくぐちさんわの徒さんぐるぶつまそきて
かくまでるん[illegible]をのぐろハいそぐくりて
[illegible]ヨャヨんくけきとのふくんぐあるよ[illegible]そうまろ
てあるくろいるうるまたまうくまをきアねくぐ
ヨろちぐいくきとのゆとまるゆへが。ぜんてく

このごろうちうろうへいしてそのさ
らうとおもうさそーてどと人長う田やへ
ある
穴そのうちつれあひだいちどのうさそのさ。
そのうちるでこれるてたびくーいくーそよ
だるるわもおくるさんがいやとのうけ者や
あるめんがトのめざるハ見ハ何うふうさ
くるうあるとまとくおりひるれくどく
たびひらり
谷中の月三の巻